

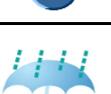
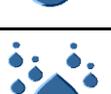
◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<6月> 業界の景況(前月比DI値)

先月同様、新型コロナウイルスの影響により、景況感の悪化が続く。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和2年3月	令和2年4月	令和2年5月	令和2年6月
製造業	食料品製造業	 △ 83	 △ 83	 △ 50	 △ 33
	木材・木製品製造業	 △ 100	 △ 100	 △ 100	 △ 100
	印刷・出版 同関連製造業	 △ 100	 △ 100	 △ 100	 △ 100
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 △ 33	 △ 67	 △ 33
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 33	 △ 67	 △ 67	 △ 67
非製造業	卸売業	 △ 100	 △ 100	 △ 20	 △ 40
	小売業	 △ 100	 △ 100	 △ 83	 △ 67
	商店街	 △ 67	 △ 100	 △ 100	 △ 67
	サービス業	 △ 60	 △ 83	 △ 83	 △ 80
	建設業	 △ 25	 △ 50	 △ 50	 △ 17
	運輸業	 0	 △ 100	 △ 67	 △ 67
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	緊急事態宣言が解除されたが、ホテル・観光業や飲食業に納入している組合員は、未だに正常業務ができず、売上回復となっていない。又、苦しい経営環境下ではあるが、助成金を活用して社員の勉強会を開催し、アフターコロナに備えている組合員もみられる。
製パン業界	新型コロナウイルスにより休校していた学校が再開し、給食パンは休校前の状況に戻った。市販のパンも徐々に回復しているものの、以前の売上げを取り戻すには至っていない。
冷凍業界	資金繰りは感染症特別貸付等により一時的に安定しているが、第2波の発生により再び緊急事態宣言が発令されれば、経済活動にブレーキがかかり経営悪化が懸念される。6月下旬より、ベトナム、エジプト、タンザニアへ向けたサバの輸出コンテナ船が動き出した。
水産練製品業界	前月より状況は変わらない。観光客が戻らず先が読めない状況であり、資金繰りが厳しい状態が続いている。
酒造業界	緊急事態宣言が解除され、業務用市場が動き始め、荷動きは前月より好転した。しかし、依然として厳しい状況が続いている。
製麺業界	前月同様、新型コロナウイルスの影響で、スーパー等の東京市場は非常に忙しい。一方、土産店や百貨店、業務店は厳しい状況にある。
木材業界	県内の5月の住宅着工数は1,285戸で前月比6%、前年同月比8%とともに減少した。前年同月比は10ヶ月連続で減少している。復興住宅建設の完工、消費税増税、台風19号災害に新型コロナウイルスとマイナス要因が重なった。バイオマス向けは安定しているものの、原木の値下がりが止まらず、不落も多く、荷動きが悪い。製品も値下がり傾向にあり、製材工場は減産を継続、合板も減産を続け価格を維持した。材料用原木も入荷制限はあるものの価格を維持している。虫害等の時期となり、原木納入業者は滞留原木の扱いに苦慮している。
生コンクリート業界	出荷量は、稼働日数の関係から前月比128.1%と増加したが、前年同月比は95.4%となり収益も減少した。県南地区では昨年の台風19号被害による復事で大きく伸びたほか、気仙沼地区も震災復興事業が継続し微増となるなど地域にバラつきが見られた。コロナ禍の影響が明確には見えないが、今後の経済旧工状況により生コン需要が左右されることから動向に注視していく。
コンクリート製品業界	5月の出荷量は、前月比93%、前年同月比も83%とともに減少した。累計も84%と昨年を下回った。

機械金属業界 A	前月比の売上高、収益状況等、業種によりバラつきが見られる。前年同月比は相変わらず停滞し、不変もしくは減少・悪化傾向にある。
機械金属業界 B	新型コロナウイルスの影響を受け注文残高が大幅に減り、前月より更に売上が減少した。取引先の設備投資はゼロに等しく、長期に渡り悪化が続くと予想される。
各種卸売業界	新型コロナウイルスの影響で業況が悪化している。
再生資源業界	6月の鉄スクラップ相場は、前半に上昇、後半は急激な落下となり「ジェットコースター」的な相場展開となった。これは海外相場の値動きの影響を受けたものと考えられる。新型コロナウイルスの影響で各工場の鉄製品・建材需要が冷えこみ、依然として低調に推移している。また、アルミニウム、銅スクラップは、中国の輸入制限枠が一部撤廃されるとの情報もある。 古紙はダンボール古紙ともに在庫の一時的な大幅滞留等という危機的状況は脱したが、雑誌古紙のみ余剰感が続いている。
繊維業界	3月～6月での廃業が目立った。平常時には程遠く、客足は戻っていないが、取引先が再開し少しずつ回復しつつある。
ゴム製品卸売業界	動きは活発になりつつあるが、回復スピードは鈍く、低迷がしばらく続くと予想され、今後の見通しが全く読めない。
鮮魚卸売業界	6月に入り、自粛解除により徐々に客足が戻りつつあるが、滞在時間が短く売上回復までは程遠い状況にある。 7割以上の店舗が持続化給付金の申請をしているが、給付された店舗はまだ少ない。
鮮魚小売業界	飲食店やホテル等の営業自粛が解除されたが、客足が戻らない状況が続き、納入業者は苦慮している。市場も貝毒が続き、ホヤ、ホタテ、赤貝は入荷が極小である。海水の温暖化も続き入荷は少ない。
青果小売業界	休業要請・外出自粛が解除され、人の流れは戻りつつあるが、売上は回復していない。じゃがいもに加え、人参も産地の気温が低く、出荷数が減少しており価格が高騰した。果実は梅が低温の影響を受け、例年にないほど高値となった。6月は気温の高い日が続いたため青果物の腐敗が早く、ロスが多かった。納品業務については、飲食店が再開を始め僅かながら明るい兆しが見えたが、このような状況の中で配達料を取ることができない分、経費が掛かり、まだまだ厳しい状況に変わりはない。
食肉小売業界	新型コロナウイルスによる影響が大きくでている。

家電小売業界	<p>緊急事態宣言が解除され、人出が戻りつつある。気温上昇で夏物商戦が始動し、エアコンの取付工事は既に8月中は予約が取れない状況となっている。</p> <p>国からの給付金とキャッシュレスポイント還元事業の駆け込み需要等を売上につなげるためキャンペーンやイベントを企画している。</p>
石油小売業界	<p>原油相場は、世界的に経済活動の再開がようやく広がり始め、国内でも県を跨いでの移動や事業活動の制限措置緩和に伴い、原油需要が拡大するとの見通しが強まってきた。一方、世界各地や米国で新型コロナウイルスの感染が急拡大しており、再び燃料需要の回復が遅れる恐れがあり、米国経済が改善するまでは原油需要は停滞すると思われる。このような厳しい状況を受けて国内の小売価格は、今後も小幅に値上がりすると見込まれる。</p>
花卉小売業界	<p>売上は前年同月比105.9%と前年を上回った。昨年6月の天候不順に伴う品不足から売上が落ち込んでいた月との比較によるもので低調であった。特徴として、菊の価格が低迷し活況が見られず、新型コロナウイルスの感染拡大防止により、葬儀の生花需要が大きく落ち込んだ事が要因となり、店舗販売も伸びなかった。一方、前月同様鉢物と苗物の売上は好調であった。自宅でのガーデニングや自家栽培での需要により、新型コロナウイルスによる多様な側面が見られるが、全体としては売上不調で活気が見られない。</p>
商店街	<p>(仙台地区A商店街)</p> <p>新型コロナウイルスの感染状況に注視するも、今後の見通しがたたない状況である。</p> <p>(仙台地区B商店街)</p> <p>ライヴハウスを除く多くの店が営業を再開したが、飲食関連の客数は80%程度であった。物販の売上も前年同月比70%と減少した。</p> <p>(大崎地区A商店街)</p> <p>商店街の商況は引き続き厳しく、いずれの店舗も閉店時間を早め、街の灯は消えたような状況にある。持続化給付金の受給対象者は積極的に申請手続きを行って欲しいと感じる。一方、学生服等を扱う商店は、昨年度と比較しても、売上の落ち込みが少なく給付対象とならないといった報告もある。</p>
クリーニング業界	<p>ホームクリーニングは新型コロナウイルスの影響で最悪の状況となった。一方、リネンサプライは、ホテル関係は最悪の状況だが、医療関係に於いては順調である。</p>
自動車整備業界	<p>車検台数は前年比では、例年どおりで推移した。整備業は、今のと</p>

	<p>ころ新型コロナウイルスの影響は少ないと見ているが、自動車整備業の基盤となる新車販売の影響が不安材料である。</p>
警備業界	<p>警備業界も徐々に新型コロナウイルスの影響が大きくなってきた。春先からのイベント関係の警備業務が殆どキャンセルとなり、イベント警備の売上は前年比9割以上の減少となった。また、建設工事現場で新型コロナウイルスの感染者が出たため、全国的に一部工事が中断または延期となり、交通誘導警備業務もかなり減少している。減少した仕事の取り合いが起き、警備料金に悪影響が出始めている。</p>
湾岸旅客業界	<p>新型コロナウイルスの影響で土日のみの部分営業を開始した。雇用の維持と事業継続のため、各種制度利用や感染症対策を講じながら、対策ガイドラインに沿って段階的に事業を再開している。</p>
ホテル・旅館業界	<p>県を跨いだ移動制限が解禁され、観光客が少しずつ増えてきた矢先、全国的に感染者が増え始め、先の見通しが見えない厳しい状況が続いている。</p>
シーリング業界	<p>作業所の閉所も緩和され、一斉に動き出した物件の対応に追われているが、現在も事業所間でバラつきが出ている。忙しい事業所は集中的な作業に追われ人出不足が深刻なため、他の事業所と連携をとり対応に努めたい。材料の出荷量については前月比、前年同月比ともに減少している。経営状況は、作業所に動きが出てきたことには安堵しているものの、今後の第2波感染を含めた先行きに不安もあり、業界としては最新情報を発信し、情報を共有し乗り越えていきたい。</p>
建設業界	<p>社会インフラは止めないとの政府方針もあり現場は稼働しているが、今後民間設備投資が抑えられることが想定され、建築工事を中心とした事業者に影響を及ぼすことが想定される。東日本大震災から10年、復興予算が計上されていたが、公共事業費は大幅に減少しており、復興後の宮城県内公共事業費の予算の確保が懸念される。</p>
硝子業界	<p>6月も飛沫防止のためのプラスチック板の受注が続いている。また、室内換気を良くするため網戸の設置や張替えの需要が、売上に大きく寄与した月となった。7月も引き続き第2波の警戒感による需要が高まる事に期待したい。</p>
板金業界	<p>前月に続き新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続いている。</p>
タクシー業界	<p>実車率は、新型コロナウイルスの影響が続いているものの、底打ち感がある。輸送収入も、僅かではあるが上向き傾向にある。 LPG 価格が若干値上がりした。</p>

軽自動車運送業界	<p>コロナ禍による影響は5月よりも大きい。定期便は一時休業になった事業者は6月になっても戻らず、一時的に戻っても再び休業になっている。</p>
倉庫業界	<p>売上高は前月比減少した。在庫量は減少したが、出庫量は微増である。品目別では、在庫量が増加したのは金属機械製品や雑工業品で、出庫量が増加したのは米などの農産品である。</p> <p>前年同月比も売上高は減少している。在庫量が減少し、保管残高は微増傾向であった。在庫量が増加したのは電気機械製品で、出庫量が増加したのは農産品や紙・パルプである。</p>
不動産業界	<p>緊急事態宣言の解除に伴い、例年春に行われている人事異動が7月に本格化することから、賃貸マンション等の引き合いが多かった。</p>